

# 定例森の観察会 自然の宝物見つけ隊



開催日：5月21日

天気：晴れ

参加人数：3人

講師：濱津ミサノ

北田正憲

朝から夏を思わせるような快晴の空となりました。

今回の定例森の観察会は濱津ミサノ、北田正憲氏の案内で森に入りました。この季節は生き物たちが最も活動的な時です。今の季節に目立つミヤマエンレイソウの観察を中心に新緑の森を歩きました。

森に入る前に、森の中の危険な生き物について説明を受けました。

- ・蜂は、むやみに手で追いかかない。（攻撃されていると誤解されて危険）
- ・触ってはいけないヤマウルシやツタウルシ、大丈夫なナツツタの見分け方。
- ・マダニが媒介するウイルスや細菌による感染症が北海道でも発症した例が報告されていて、これからの季節は特に肌を出さないように注意し、シャワーで流すようにする。
- ・ヘビはむやみに刺激しない。

森は新緑の季節、照り返しのきつい道路から森へ入ると、ひんやりとした心地よさです。キビタキの歌で出迎えられました。

まず、濱津氏が前日の下見でフキの葉の上にオオムラサキの幼虫を発見したときの嬉しさとその魅力を挿絵付で説明。その可愛らしい絵を見て、当然本物を見たくなります。上を見上げれば、オオムラサキの食樹エゾエノキの葉が広がっています。たくさんの虫食いの穴の空いた葉を丁寧に探してみました。他でもエゾエノキを見つけるたびに気にかかりましたが、観察会では見つけられませんでした。残念です。



昨日出会ったオオムラサキの幼虫を絵で説明中…  
キティちゃん？



エゾエノキ



新緑のみずみずしい葉は春に卵から孵ったばかりの小さな昆虫にとって柔らかで美味しい餌です。ムラサキシキブにはイチモンジカメノコハムシ、サクラの仲間に多いのはセモンジンガサハムシ。どちらも陣笠のような前翅が透明で面白い形をしています。みるみる大きくなったオオウバユリの葉に、カタクリハムシの幼虫、池のそばのテマリカンボクの葉はレース模様のようにサンゴジュハムシの幼虫に食べられていました。このサンゴジュハムシは時に大発生することがあるそうです。



セモンジンガサハムシ



アカスジキンカメムシ 幼虫



白く綿のような蠟物質に包まれたキジラミ



ミヤマエンレイソウ

いよいよ今日のメイン、ミヤマエンレイソウの咲く森です。天気の良い日が続いたせいで、すでに花は受粉を終えて果実がふくらみ始めていました。種子に付いているエライオソームという物質をアリが好み、種子を親株から遠くへ運んでもらう作戦だそうです。よく見ると、花の咲く個体の周りにも、小さな個体をたくさん見つけました。ミヤマエンレイソウは種子から花が咲くまで10年以上かかるそうです。



一年目は一本の細い糸のような葉だけ、4～5年かけてやっと3枚の葉をもつようになる。

散策路の周りではミツバウツギ、ミヤマガマズミの白い花が満開でいい香りがしていました。明るい林で見つけたタチシオデは黄緑色の線香花火のような花を見せています。雌雄異株の両方の花を近くで覗いてみることができました。トチノキの下の地面に広がるヒロハハナヤスリの不思議な形、これがシダと聞いて驚きました。トチノキの花は受粉が終わると花の中の斑点が黄色からピンクに変わります。私たちもミツバチの気分黄色の花を選んで蜜を味見しましたが以外にも甘くありませんでした。それよりもツリバナの小さな花のほうがはっきりとした甘さを感じたのは意外でした。



タチシオデ 雌花と雄花



ヒロハハナヤスリ  
胞子葉をさわるとギザギザ



トチノキの花の蜜を味見

#### 今回観察したもの

ツタウルシ、ナツツタ、エゾエノキ、ムラサキシキブ、マムシグサ、ムラサキケマン、オニグルミ、ハナイカダ、ミヤマエンレイソウ、ハシバミ、ツノハシバミ、オシダ、ササバギンラン、タチシオデ、ヒロハハナヤスリ、トチノキ、キランソウ、セイヨウタンポポ、エゾタンポポ、ツリバナ、イチモンジカメノコハムシ、カタクリハムシ幼虫、セモンジンガサハムシ、サンゴジュハムシ、キジラミの仲間など。

次回は6月18日

虫の目で見るネイチャーランド

伊達功氏・佐々木智雄氏のご案内です